

制作者紹介



制作者 ^{しん ぐう すすむ} 新宮 晋 (造形作家)

作品名 『風の森』

作品のコンセプト

駅前広場とは、その土地の顔のようなものだ。はじめての訪問者には、個性的で新鮮な驚きを与え、日常的な利用者には、見飽きることなく親しめるような、風景を作れたら良いと思う。私は、この吉川美南駅の駅前広場に、風で動く彫刻を植えることで、この土地の原風景だった森のイメージを再現したい。

風になびき、ダンサーのように軽やかに舞う金属製の彫刻群は、陽光の下ではきらきらと輝き、夜は幻想的な光の森に変身する。作品の鏡面には、空や緑、周りの風景が次々と映し出される。

この駅に着いた人が、「風の森」に迎えられてホッとするような空間が作り出せたらと願っている。



制作者 ^{むろ せ かず み} 室瀬 和美 (漆芸家)

作品名 『木精』『なまず』

作品のコンセプト

◆蒔絵螺鈿壁面『木精』

吉川美南駅コンコースの漆壁面は、市の樹木である金木犀・銀木犀を主題として、その花が咲き葉が茂る木々に遊ぶ子供達の様子を鳥の形として表現しています。

技法は漆塗り・金箔地に白蝶貝・金粉・乾漆粉による蒔絵で表し、鳥はプラチナ粉で裏彩色を施した夜光貝の螺鈿です。

◆モニュメント『なまず』

吉川駅前のモニュメントは、市民に親しみのある「なまず」を題材として、銅板を鍛金という技法で打ち出し、成形した上に漆を塗り、金箔貼りで仕上げてあります。

「なまず」は川の自然、「親子」は絆・優しさ・平和、「漆」は伝統・雅・麗しさ、「金」は不変・発展を表現し、吉川市民の幸せを祈って制作しました。



制作者 ^{なが たに きょう じ} 長谷 京治 (彫刻家)

作品名 『風のアーチ』『風の家』『風の種』

作品のコンセプト

◆『風のアーチ』

大地から放たれたアーチは、自然界のダイナミックな動きをイメージしています。大自然への畏敬の念とともに空中で風に揺らぐカタチは自由奔放な心のシンボルです。

◆『風の家』

丘の部分はイタリアトスカーナ地方の丘をイメージしています。丘陵を吹き抜ける風と扉のない半分抽象的な家。心のよりどころとしてのイメージです。

◆『風の種』

遙かなる未来人は、化石となった機知に富んだ我々現代文明の痕跡を発見するでしょう。化石は壮大な時の流れの中で、風に削られ磨かれて種の形となりました。芽生える強靱なエネルギーをイメージしています。



制作者 ^{ろく かく き じゅう} 六角 鬼丈 (建築家)

作品名 『風韻器1』『風韻器2』

作品のコンセプト

風は直接は目に見えない、大空に雲が流れ、木立ちが揺らされると地球の大いなる風の力をみる事ができる。そして風速や風圧に触れると体から熱を奪われ、気持ちも良いが、一方寒さも運んでくる魔物のようでもある。

この不思議な地球の生き物「風の声」を聴いてみたいと思い、大きな耳のモニュメント「風韻器」をつくることにしました。

耳を当てると、木立ちのざわめき、鳥の声や虫の音、車や電車の機械音、人の話し声も風の唸り声と一緒に聞こえてくる。そこには、自然と都市の生活音が入り混じる「音の風景」があり、イメージを描きながら見えてくれるといい。

気を鎮めて聴いてみてください。

芸術・文化のまちあるき

